

【小規模飲食店は地域経済の潤滑油】

人間に例えれば血液です。血の流れが良ければ元気でいられます。
今日1日の楽しいこと・辛かったことも吐き出し「明日の活力の素」を提供してくれる「小規模飲食店」。
経済社会では欠かせない存在だと思います。厳しい競争を耐えている地域産業の皆様にとって、なくてはならないのが小規模飲食店です。

「人生応援店」

これが小規模飲食店の生きる道。

一例図 <居酒屋>

店主・スタッフとお客様（男・女共）と、お客様同士が人生の喜怒哀楽をいっしょになって会話でき、それが楽しみで夜な夜な常連客が集まる小規模飲食店。

外食産業（大規模飲食店）
は美しすぎます。
（マニュアルどおり）
・若い連中ばかりの所
・女性ばかりの所
・カラオケばかりの所
……。
画一化された店づくりに
人情味が感じられません。

愚痴は家で？

いや、私（マスター・ママ）が受け止めます。
小規模飲食店の店主が最高のカウンセラー。

お酒を飲みながら
語り、笑い、嘆き……
こだわりの一品は、「おでん」くらい。



「なじみ・いきつけ店」は最高の人生学校のようなもの。

「血のかよったお店づくり」に、飲食寺子屋「満席塾」は全力投球します。

知らぬ同志が
小皿たたいて

この街に元気な居酒屋
（小規模飲食店）があってよかった！

「まあ一杯どうぞあ」